

## [特別活動]

# 生徒の主体性を引き出す学校行事の工夫 － 地域・教職員間の連携で生徒を支える組織づくり －

菊池 里佳\*

## 1 問題の所在

当校は、市の中心地である駅前商店街や、峠を越えた谷あいの集落を学区に有しており、総合的な学習の時間において、平成29年から地域人材や地域資源を活用した探究的な学習に取り組んでいる。地域住民は学校に対する関心が高く、コミュニティ・スクールとして協力的な風土が醸成されている。令和3年2月には、「地域学校協働活動」推進に係わる文部科学大臣表彰を受け、地域を牽引する役割を担っている。

生徒は、こうした伝統を継承するのみに留まらず、生徒会を中心として学校生活を積極的に改善する意識が高い。毎年、生徒向けの「ガイドブック」を作成し、年間を通して各専門委員会が様々な企画を行っている。一昨年春の生徒総会では、生徒会からの提案によって、新たな学校行事となる文化祭も実現した。生徒主体の活動となるように、その年の秋、第1回を実施したが、年度途中での発案であったため課題が多かった。既存の体育祭や合唱祭と重なり、教職員も生徒も多忙であったこと、目的や方法を共通理解しきれず、教育的効果を十分に実感することができなかったことが主な課題である。2年目を迎える文化祭の組織づくりは、当校において急務であると考ええる。

生徒指導提要の改訂において、全ての児童生徒を対象とした発達支持的生徒指導の重要性が明示された中、当校の現状を踏まえると、「日々の教職員の児童生徒への挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話、及び、授業や行事等を通じた個と集団への働きかけ」を大切に、学校全体で推進することが必要だと考える。犬塚（2016）は、生徒指導と特別活動との関連において、「特に、学級活動（ホームルーム活動）の内容(2)(3)には、生徒指導の重点指導項目が配列されている」とし、「生徒指導の機能の発揮が最も期待される領域が特別活動であることは論をまたない」と明言していることから、学級活動を軸として、教職員と生徒、教職員同士、生徒同士が協働しながら、持続可能な学校行事の形を創る取組を推進したいと考えた。特別活動について、飛田（2016）は「学校行事を有効活用し、子どもたちのかかわりがより深くなるように、意図的に活動組んでいくことが大切である」としたうえで、「体育的行事・イベントだけでなく、他の行事についての取り組みが、どのように学級経営に反映されるかについても実践し、検証していく必要がある」と実践後の課題を挙げている。また、中野（2014）は、地域の祭りや文化祭を合同で行う実践を通して、「主体的な生徒会活動を進める意欲につながった」と、その有効性を認めている。

生徒の変容と効果については、池田（2022）が、スクールエンゲージメントの把握について「学校現場でもよく知られているQ-U（河村，2006）やアセス（栗原，2000）などのアセスメントツールは適応感を把握するのに優れたものである」としていることから、学校環境適応感尺度「アセス」（以下、アセス）を実施する。

以上から、本稿では、コミュニティ・スクールとしての土壌を生かし、生徒が主体となりながら、地域と連携できる学校行事として文化祭を組織的に行うこと。その際、学級活動が軸となるような取組を新たに取り入れることが有効であると考え、本主題を設定する。

## 2 研究の目的

本研究では、2学期に行われる文化祭に向け、学級での話し合い活動を全校で充実させる。生徒が目指す姿を共有し、それを拠り所にしながらか活動を展開すること、そして、全校生徒で相互評価し合うことによる効果を検証する。また、教職員同士の協働を推進するために、校務分掌間の連携を意識した文化祭の分担を作成する。その際、各分掌の特徴を生かしながらか、役割を明確にする。評価については、従来の学校評価アンケート（職員・生徒）に加え、文化祭の前後

---

\*上越市立城北中学校

でアセスを実施し、生徒の変容と実践の効果を考察する。

### 3 研究の内容と方法

#### (1) 期間・対象

令和5年8月～12月、全校生徒（14学級・425名）を対象に行う。

#### (2) 学級での話し合い活動の充実

1学期末、2学期初め、文化祭前（体育祭後）、文化祭後に話し合い活動や振り返りの時間を全学級で設定する。2学期の行事（体育祭・文化祭）を終えた後、自分たちが「どのような学級になりたいか」という目指す姿を共有する。

#### (3) 生徒を支える組織づくり

- ① 研究主任との連携…校内研修テーマの設定、校内研修の実施
- ② 特別活動主任との連携…学級での話し合い活動の方向性の共有、生徒会の組織づくり、生徒間の相互評価
- ③ 上越教育大学派遣職員との連携…アセスの実施・分析の協力、校内研修の講師依頼
- ④ 地域との連携…総合的な学習の時間、文化祭の会計

### 4 実践の結果と分析

#### (1) 研究の実際

##### ① 職員研修（8月24日）

夏季休業中の職員研修について、研究主任と連携しながら実施した。教職員間で協働していく方向性の確認と協力の依頼を行い、教育目標や学校経営方針、校内研修目標を再度確認した。そして、生徒指導提要や特別活動の内容項目と文化祭が、どうつながっているのかについても全職員で共通理解を図り、研修を深めた。

| 学校経営方針                                                   | 校内研修推進計画                              | 生徒指導提要（R4改訂）<br>【第1章 生徒指導の基礎 生徒指導の実践上の視点】                                  |
|----------------------------------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| <p>「一期一会」の心</p> <p>学習<br/>授業改善</p> <p>生徒会活動<br/>学校行事</p> | <p>自ら考えをもち、協働的に学ぶ生徒を育むための学級経営の在り方</p> | <p>◆自己存在感の感受</p> <p>◆共感的な人間関係の育成</p> <p>◆自己決定の場の提供</p> <p>◆安全・安心な風土の醸成</p> |

#### 文化祭の目的

- ・生徒の創意による生徒会活動に積極的に取り組むことにより、生徒が自信と誇りをもち、よりよい学校生活や社会生活の実現を目指す。
- ・学習成果発表及び、生徒の自由な表現活動の場を設定することにより、文化に親しむ態度を育むとともに、互いに認め合う雰囲気の醸成を図る。

#### ② 学校行事の整理・統合

昨年度の課題から、学校行事の実施時期・準備期間を整理することとした。企画委員会で検討を重ね、合唱祭と文化祭を併せて行う案が出され、文化祭を2日間日程で実施することとなった。

| 昨年度の行事日程                                                                                                                                   | 新たな行事予定                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭 10月6日（木）</li> <li>・合唱祭 11月1日（火）</li> <li>・文化祭 12月9日（金）※感染症流行のため延期<br/>→ 12月21日（水）実施</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭 10月5日（木）</li> <li>・文化祭 11月21日（火）・22日（水）<br/>（合唱祭）</li> </ul> |

準備日程については、文化祭準備・練習期間を体育祭終了後の10月10日（火）からに設定し、生徒が主体的に活動できる環境を整えた。放課後の時間についても、月・水・金曜は音楽発表部門（学級での合唱練習）、火・木曜はアトラクション部門とステージ発表部門の準備と分け、学校全体で文化祭に向かう雰囲気を高めた。

当日の文化祭の内容について、以下に整理してまとめる。

11月21日（火）

・音楽発表部門（午前） ・翌日の準備活動 ※必要な生徒のみ（午後）

11月22日（水）

・アトラクション部門（午前）… 有志生徒による模擬店  
・展示部門（午前）… 美術・技術・家庭科の成果物展示，総合的な学習の時間の成果物  
・ステージ発表部門（午後）… 体育館ステージを使った，有志の生徒による自由な表現活動

### ③ 合唱祭から文化祭音楽発表部門への変更

従来の合唱祭を文化祭の一部門にすることで，その目的を変え，学級活動に視点を当てた。

従来の合唱祭の目的

- ・生徒一人一人が歌唱力を高め，合唱の表現に必要な知識や技能を身に付ける。
- ・よりよい合唱表現を目指し，問題解決に向けての方策を考えて，仲間と共に創意工夫のある表現に練り上げる。
- ・学級での所属感を高め，他者を尊重し，自分の役割を果たして協力しながら，進んで目標達成に向けて努力する態度を身に付ける。

音楽科を中心とし，よりよい合唱を創り上げることが目的としていた。文化祭の目的に合致するように，従来あった3つ目の目的を生かしつつ，新たな目的を設定した。その際，音楽科の教職員・特別活動主任（生徒会担当）と何度も話し合いをもち，学級活動が軸となるように，方向性を確認しながら進めた。

新たな音楽発表部門の目的

- ・発表に向けて「生徒が主体的に考え，決定する場」を通じて，学級自治の力を高める。
- ・各学級でよりよい発表を目指し，問題解決に向けて仲間と共に創意工夫ある表現を練り上げる。
- ・学級に対する所属感を高め，他者を尊重し，自分の役割を果たす態度を身に付ける。

また，評価方法についても変更を行った。従来の外部審査員による審査（グランプリ・金賞・銀賞・銅賞）を撤廃し，生徒会主体となる，全校生徒の相互評価とした。音楽的な評価ではなく，各学級の発表が，目指す学級の姿という目的を達成しているかで評価することとした。そのために以下の流れで活動を進めた。

#### 始業式 8月29日（火）～9月1日（金）学級活動①

各学級で話し合いを行った。内容は「1学期を終えた学級の実態・雰囲気・長所・短所について」，「2学期の行事を終えて，どんな学級になりたいか（目指す姿の共有）」である。特別活動部から，話し合い方の例やワークシートを提案しながら，各学級担任裁量で実施方法は任せることとした。各教室にあるホワイトボードをツールとした話し合い活動の素地が生徒に育っているため，生活班での意見をホワイトボードにまとめ，正副級長が進行しながら全体で共有する学級が多く見られた。話し合いの結果は，合唱曲選定に生かすこととした。同時に，音楽発表部門の中心となる実行委員を各学級2名選出し，今後はリーダーとして機能するように組織を構成した。

#### 9月4日（月）～8日（金）音楽の授業

特別活動主任と音楽科で作成したワークシート（図1）を用いて，学級の実態や目指す姿から，各自が学級に合った曲を探す活動を行った。曲の特徴や詩の内容をまとめ，根拠を明確にしながら，学級に薦める理由を書くことができたようにした。音楽科と学級担任が連携し，学級活動②で曲を決めるためのプレゼンに向けた準備活動とした。

#### 9月11日（月）～15日（金）学級活動②

ワークシートを基にプレゼンを行い，曲の決定を行った。多数決ではなく，互いの意見を尊重しながら合意形成を図ることができるよう，特別活動主任が実行委員に事前指導を行った。伴奏者

| 曲名                                                   |     |  |
|------------------------------------------------------|-----|--|
|                                                      | 作詞者 |  |
|                                                      | 作曲者 |  |
|                                                      | 編曲  |  |
| <p>【曲の特徴】 ・音楽を形作っている要素から ・詩の内容から</p>                 |     |  |
| <p>◆お薦めの理由（曲に対する思いやこの曲を通して成長させたいことなど，自分の思いをまとめる）</p> |     |  |

図1 「私のお薦め曲」ワークシート

や指揮者の選出も進め、校内締切を9月20日（水）に設定し、以降は体育祭準備期間に入った。

#### 9月20日（水）～10月6日（金）※体育祭振り返りの日

音楽の授業で曲の練習をしながら、指揮者・伴奏者は個別に練習を進めた。学校全体は体育祭に向かっていった。

#### 10月10日（火）後期教育活動開始 生徒朝会

文化祭実行委員から、全校生徒への説明会を行った。スローガンの発表や各部門の募集を行った。この後の1限に全校一斉の学級活動を入れており、そこで話し合ってほしい内容についても説明を行い、いよいよ文化祭に向けて動き出すことを学校全体で確認した。

#### 10月10日（火）学級活動③

音楽発表部門の放課後練習に向けて、話し合い活動を行った。「どんな学級になりたいか（目指す姿の共有）」を再確認した後、「曲の見どころ」「曲に込めた思い」を話し合った。その後、実行委員が中心となり、ワークシートにまとめ、当日配布するパンフレット（図2）を作成した。特に、「見どころ」については、発表後の生徒全員による相互評価の観点となるため、練習の中でも重要な項目となった。

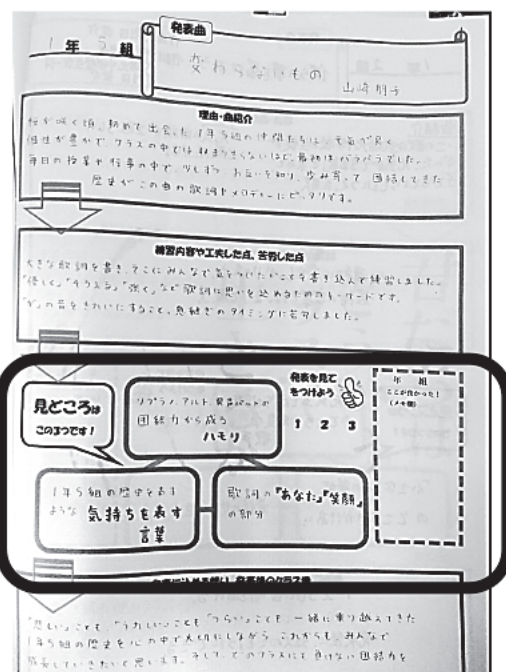
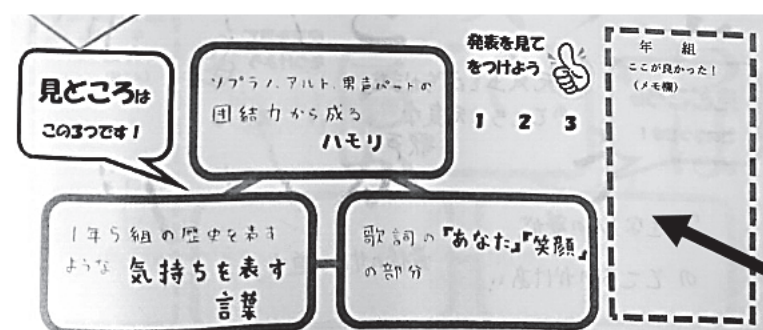


図2 文化祭音楽発表部門パンフレット

#### 11月1日（水）～20日（月）学級での放課後練習

実行委員や指揮者・伴奏者・パートリーダーが中心となり、各学級での放課後練習を行った。終学活を含めた40分間とし、学校中で歌声が響く時間となった。終学活を含めた活動時間を設定したことにより、時間を有効に使うための取組や移動時間の考慮など、生徒が主体的に動きながら工夫する姿が見られた。

#### 11月21日（火）文化祭音楽発表部門当日

体育館で発表を行った。来場する保護者数を考え、学年ごとに発表、休憩時間を設定した。生徒は、配布されたパンフレットを見ながら発表を聴き、評価を行った。発表後、Googleフォームを使って評価の入力をした。各学級の見どころにした観点の達成率が、全校生徒の80%以上の評価になると、実行委員から「Wonderful Class」として表彰された。結果、全学級が表彰されることとなった。

#### ④ アトラクション部門、ステージ発表部門での生徒主体となる活動

体育祭を終えた10月10日（火）から、後期教育活動に入り、学校全体で節目を迎えた。生徒朝会で、実行委員から文化祭準備期間に入ることを説明し、有志の生徒の募集を開始した。募集にあたっては、生徒が企画書（図3）を書き、実行委員、校長決裁の手順を踏んで決定することとした。学習指導要領では「生徒の自発的、自治的な活動が効果的に展開されるようにする必要がある。」としたうえで、「この自発的、自治的な活動は特別活動の目標の達成のために必要な学習活動の形態の一つであり、その活動には、一定の制限や範囲があることについて

| 責任者： 年 組 氏名 |                        |
|-------------|------------------------|
| アトラクション名(仮) |                        |
| アトラクションの概要  | ※内容を分かりやすく、簡潔に書いてください。 |
| 参加者         | ※氏名(ID)を記入             |
| 使用会場(希望)    | ※普通教室は使用しない            |
| 実施時間        | ※9:00～12:00の間で実施できます。  |

図3 アトラクション部門企画書

でも生徒に理解させ、必要な場合には的確な助言や指示を行うなど適切に指導をしていくことが大切である。」と加えている。生徒に責任をもたせながら、生徒の主体性を引き出すための手立てとなるよう、期限も設けて実施した。

予算についても同様の手順をとった。(図4)コミュニティ・スクールの予算から計上するため、要望書で認められたものを注文する形をとった。生徒は予算内で運営をする難しさ、任されている楽しさを実感しているようであった。

アトラクション部門は有志の生徒による参加であったため、多様な形態の参加が見られた。

| 物品名等 <sup>①</sup>     | 単価 <sup>②</sup> | 数量 <sup>③</sup> | 小計 <sup>④</sup>    | 備考 <sup>⑤</sup>    |
|-----------------------|-----------------|-----------------|--------------------|--------------------|
| (例) 消しゴム <sup>⑥</sup> | 50 <sup>⑦</sup> | 50 <sup>⑧</sup> | 2,500 <sup>⑨</sup> | 景品として <sup>⑩</sup> |
| 〃                     | 〃               | 〃               | 〃                  | 〃                  |
| 〃                     | 〃               | 〃               | 〃                  | 〃                  |
| 〃                     | 〃               | 〃               | 〃                  | 〃                  |
| 〃                     | 〃               | 〃               | 〃                  | 〃                  |
| 〃                     | 〃               | 〃               | 〃                  | 〃                  |
| 〃                     | 〃               | 〃               | 〃                  | 〃                  |
| 〃                     | 〃               | 〃               | 〃                  | 〃                  |
| 合計金額 <sup>⑪</sup>     |                 |                 | 円 <sup>⑫</sup>     |                    |

図4 アトラクション部門予算要望書

#### ○学級単位での参加

学級内で希望を募り、「写真スポット」・「やきそば店」・「アラビア語講座」・「雑貨屋」・「ストラックアウト」・「漫画喫茶コーナー」に分かれて活動した。「海のカフェ」・「射的」を運営した学級もあった。学級担任にとっては、学級づくりに生かすことのできる機会となった。



#### ○部活動単位での参加

秋に科学研究発表会を終えた理科部では、部活動顧問の協力の下、研究の成果物やおもしろい実験ブースを運営した。普段あまり見るることのできない部活動の様子が見られたこと、学区の小学校6年生も招待していたことから、来場者から大変好評であった。



#### ○専門委員会単位での参加

環境委員会の「Let's おそうじタイム」は、掃除タイムを競う企画、ユネスコ委員会の「防災すごろく」は「GURAGURATOWN」という教材を使った企画であり、各委員会の特色を生かした斬新な取組であった。



#### ○友人同士での参加

最も数を占めた参加形態であった。「フォトスポット」・「カフェ」・「クラブ」・「おばけ屋敷」・「折り紙展示」・「QRコードのスタンプラリー」・「輪投げ」・「ボーリング」・「ヨーヨー釣り」などがあり、生徒の主体性が見られるものであった。



ステージ発表部門は、きょうだいで参加や友人同士の参加、教職員の参加があり、大変な盛り上がりだった。

教職員の分担について、各アトラクションとステージ発表には、責任者の職員を学年部中心に配置した。同時に展示部門もあり、特に2学年では駅前商店街とのコラボ企画を進めていたため、負担が集中しないように配慮した。職員分担については一覧にし、教諭や講師だけでなく、教育補助員や介護員、用務員等も名前を入れさせてもらうよう声を掛け、全職員体制で行事を支える組織づくりを意識した。

## (2) 結果と考察

### ① 後期学校評価アンケート(職員)の記述

「文化祭の雰囲気が分かり、次年度はもっと教科内で行事の成功に向けてカリキュラムをつくっていけるのではと前向きに考えられた。」

→ 職員研修で文化祭の目的を共有し、校務分掌や教科など、それぞれの立場から見直すことができた。

「昨年は、体育祭→音楽祭→文化祭と3段階で休みなくという感じでしたが、今年は2日間に凝縮されていて昨年度よりは緩和されたと思います。生徒が主となって活動する姿が多く見られたのもよかったです。」

→ 行事の統合をしたことで、活動の焦点化をすることができ、生徒の主体的な活動につながった。

「文化祭の音楽部門ではコンクール色がなくなったので、必要以上にかかる負担が減ったように思います。生徒ものびのび歌うことができたと感じています。」「特に文化祭は、生徒に素晴らしい自己表現の場になった。」

→ 特別活動の視点から音楽発表の目的を設定し、各学級で話し合うことで、生徒主体の多様な表現が実現した。

## ② アセスの実施と分析結果

- ・対象 全校生徒（14学級）
- ・時期 第1回目 9月1日（金）… 2学期最初 第2回目 10月6日（金）… 体育祭後  
第3回目 11月24日（金）… 文化祭後
- ・方法 Googleフォームを用いて回答を集める。
- ・周知 職員研修（8月24日）時にアセスについての概要を周知する。分析結果については、職員研修（12月25日）「3学期の学級づくり」の中で活用法を研修する。

アセスの結果は以下の通りである。

表1 アセスの数値

| 実施月 | 生活満足感 | 教師サポート | 友人サポート | 向社会的スキル | 非侵害的関係 | 学習の適応 | 対人的適応 |
|-----|-------|--------|--------|---------|--------|-------|-------|
| 9月  | 55.2  | 61.5   | 57.3   | 54.9    | 60.4   | 51.4  | 58.5  |
| 10月 | 56.1  | 60.9   | 58.1   | 55.9    | 59.5   | 50.2  | 58.6  |
| 11月 | 56.1  | 60.9   | 59.1   | 56.9    | 60.3   | 49.9  | 59.3  |

学校行事を通して、「生活満足感」は0.9ポイント上昇した。「友人サポート」は1.8ポイント上昇し、「教師サポート」は0.6ポイント下降している。これは、教員主導でなく、生徒相互が声掛けをしたり、決定をしたりしながら、主体的に学校行事を創り上げた表れであると分析する。特に文化祭では、「向社会的スキル」が顕著な上昇を見せた。生活班や学級内での話し合い活動によって、個々の生徒がコミュニケーションスキルを獲得し、それを発揮することができたこと、地域や保護者の協力により、様々な他者と関わることができたことが要因であると考えられる。また、「非侵害的関係」も高い数値で維持されていることから、生徒が安心できる学級の風土が醸成されたことも分かる。

## 5 研究の課題

学級活動で話し合い活動を重ね、合意形成を図る過程において、共感的な人間関係を育むことができた。学校行事においては、生徒に責任をもたせながら、主体性を引き出せるような教職員の協働による組織づくりが有効である。自己決定の場を与え、自己存在感や自己有用感を感じさせることができるよう、今後も持続可能な取組が必要である。

アセスを実施したことにより、「学習の適応」の変容を見ることができた。本実践では、学習の適応の数値が学校全体で大きく下降した。自ら考えをもち、協働的に学ぶ生徒の育成に向けて、どのような学級経営の取組が有効であるか。また、学校規模、学校行事としての取組との関連や有効性については更なる研究が求められる。

## 引用・参考文献

池田 誠喜 「スクールエンゲージメントと生徒指導」『日本学校心理学会年報』第15号、2022年、20～29 pp

犬塚 文雄 「生徒指導の場としての特別活動－OG機能に着目して」日本特別活動学会紀要第24号、2016.3

栗原 慎二・井上 弥 『アセスの使い方・活かし方』ほんの森出版、2023年

飛田 修 「体育的イベントを学級経営に関連させることは学級集団にどのような好影響を及ぼすかについての研究」『教育実践研究』第26集、上越教育大学学校教育実践研究センター、2016年、205～210 pp

中野 祐輔 「子どもたち自身が、企画運営する生徒会運営を目指して」『教育実践研究』第24集、上越教育大学学校教育実践研究センター、2014年、205～210 pp

文部科学省 『中学校学習指導要領 特別活動編』・『生徒指導提要』